

令和 2 年度評価結果を踏まえた改善策を反映させた

令和 3 年度普及指導計画書

(関係計画のみ抜粋)

- | | |
|------------------------------------|---|
| ○東青地域県民局地域農林水産部 | 1 |
| 「トマト指定産地の生産力向上」 | |
| ○中南地域県民局地域農林水産部 | 2 |
| 「中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大」 | |
| ○三八地域県民局地域農林水産部 | 3 |
| 「農山漁村女性を中心とした活力ある地域づくり」 | |
| ○西北地域県民局地域農林水産部 | 4 |
| 「中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及」 | |
| ○上北地域県民局地域農林水産部 | 5 |
| 「新規就農者の定着と経営基盤の強化」 | |
| ○下北地域県民局地域農林水産部 | 6 |
| 「新しい生活様式に対応した「しもきたマルシェ」の確立と販売力の強化」 | |

①施策体系	2. 労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産 (1) 国内外の競争力を勝ち抜く産地力強化							
②課題名	トマト指定産地の生産力向上 (R1~3年度)							
③対象名	J A青森トマト部会 (97名)、J A青森ミニトマト部会 (28名)							
④指導チーム	◎渋谷主幹、○藤田専門員、久保田副室長							
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>当管内のトマトは、高齢化や労働力不足等による栽培面積の減少が続いている一方、ミニトマトは単位面積当たりの所得がトマトより高いことから、新規就農者を中心に作付面積が拡大しており、一戸当たりの栽培面積も増加傾向となっている。</p> <p>いずれの品目においても、省力・低コスト化が課題となっていることから、平成28年度から2本仕立てUターン誘引栽培を推進した結果、令和2年度はトマトで23戸、ミニトマトで11戸の農家が導入したが、今後も普及を図っていく必要がある。</p> <p>管内のトマトは、令和元年産から新品種「桃太郎ワンダー」への切替えが進んだことから、品種特性を踏まえた肥培管理方法に加えて、不順天候対策やしおれ・軟化玉対策及び害虫防除対策に関する指導をJ Aや種苗メーカーと連携し、一体的に進める必要がある。</p> <p>また、ミニトマトでは、斑点病や日焼け果等の発生、S・2S規格の小玉対策が必要である。加えて新規就農者等による作付が増加していることから、早期の技術レベルの向上が急務となっている。</p> <p>ICTを活用した自動かん水・施肥システムを導入したハウスにおいて、生育及び天候に応じた設定の改善のため、継続してデータを蓄積する必要がある。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト及びミニトマトの低コスト省力化に寄与する2本仕立てUターン誘引栽培の普及 (R1~3) ・「桃太郎ワンダー」導入を契機としたトマトの良品安定生産の推進 (R1~3) ・ミニトマト収量の高位平準化と新規作付者の技術レベルの早期向上 (R1~3) 							
⑥目標及び実績	項目	現状(H30)		元年度	2年度	3年度		
	2本仕立てUターン誘引栽培の導入面積	4.2ha	目標	4.4ha	7.5ha	7.5ha		
	トマトの単収向上	5,466	実績	7.0ha	6.6			
	kg/10a		目標	5,600	5,800	6,000		
ミニトマトの単収5t/10a以上の生産者数	9名	実績	5,139	4,877	kg			
		目標	12名	15名	17名			
		実績	12	10				
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等						
	・省力的な栽培方法(2本仕立てUターン誘引栽培)の導入推進	<ul style="list-style-type: none"> ・2本仕立てUターン誘引栽培講習会の開催(6月、7月) ・新規取組者に対する巡回指導の実施(4月~10月、3月) 						
	・トマトの良品安定生産の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・桃太郎ワンダー指導情報の発行(4月) ・桃太郎ワンダー栽培講習会の開催(6月、7月、8月) ・個々の成績表に基づいた課題整理と課題解決に向けた農協指導員との生産者個別面談の実施(4~6月) ・個々の課題整理を目的とした個別成績表の作成支援(11月、12月) 						
	・ミニトマト栽培技術の高位平準化	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の成績表に基づいた課題整理と課題解決に向けた農協指導員との生産者個別面談の実施(4~6月) ・新規作付者及び半促成作付者に重点をおいた現地巡回指導の実施(4~10月) ・部会員相互による情報交換会の開催支援(11月) ・ICTを活用した自動かん水・施肥システム調査ほの設置(4~10月) ・先進農家による栽培講習会の開催(5月、7月) <p><構造政策課：地域貢献型経営体レベルアップ推進事業></p>						
⑧今後の課題と対応方向								

①施策体系	2 労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産 (1) 国内外の競争力を勝ち抜く産地力強化							
②課題名	④中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大 (R1～5年度)							
③対象名	弘果シャインマスカット生産者 (95人)、JAぶどう生産者協議会 (JAつがる弘前、JA津軽みらい100人)、おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者 (17人)							
④指導チーム	岩館副室長、○白川主幹、◎今村主幹専門員、工藤主査、藤田技師、前田副室長							
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>中南地域の果樹産業はりんご主体であるが、ぶどう、もも等の特産果樹の生産も盛んで、ぶどうは古くから「スチューベン」の産地として知られている。近年、「シャインマスカット」の消費者ニーズが高まっているなか、「スチューベン」作付者においても「シャインマスカット」の導入が進み、栽培面積が増加している。しかし、「シャインマスカット」は高品質果実生産のための無核処理や房づくり、薬剤防除時期など「スチューベン」と異なる栽培管理が多い。また、令和2年に露地栽培において発生が目立った難防除病害であるべと病の防除のため、適正な栽培管理技術の周知徹底が必要となっているほか、令和元年、2年と一部の園地で発生した原因不明の未開花現象の原因究明と解決策が求められている。</p> <p>おうとう「ジュノハート」は県が協議会を設立しブランド化を進めているところであり、令和2年には管内での初出荷が見られ、今後は農協や産地市場への出荷が増えることが見込まれる。</p> <p>このため、「シャインマスカット」については病虫害防除を含めた基本技術の周知と、革新支援専門員や試験研究機関との連携による未開花現象の実態把握と情報収集を行う必要がある。おうとう「ジュノハート」については、当地域での生育特性を把握するとともに、県のブランド化推進協議会が設定した品質基準及び出荷規格を周知徹底し、高品質大玉生産を推進する必要がある。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高品質シャインマスカットの生産拡大 (R1～5) ・ジュノハート高品質大玉生産の拡大 (R3～5) 							
⑥目標及び実績	項目	現状		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	シャインマスカット出荷量 (管内農協+弘果)	9.5 t (H30)	目標 実績	10t 13.9t	15t 16.3t	20t	25t	30t
	ジュノハート出荷者数	0人 (H30)	目標 実績	0人 0人	1人 1人	3人	5人	14人
	もも出荷量 (管内農協の合計値)	307t (H30)	目標 実績	350t 385t	390t 443t			
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等						
	<ul style="list-style-type: none"> ・シャインマスカットの品質向上に向けた基本技術の周知と病虫害防除の徹底 ・ジュノハートの高品質大玉生産の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会の開催 (6月、7月) ・新規作付者等の個別巡回指導 (4～10月) ・未開花現象の実態調査の継続と国、県外からの情報収集 (4～10月) ・生産・販売情報交換会の開催 (6月) ・生育観測ほの設置 (4～7月) ・個別巡回指導 (4～7月) <p><「ジュノハート」ブランド化促進事業></p>						
⑧今後の課題と対応方向								

①施策体系	4 連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり (1) 人口減少・超高齢化社会を支える仕組み						
②課題名	2 農山漁村女性を中心とした活力ある地域づくり (R2~3)						
③対象名	管内産直施設 (15施設)、三八VIC・ウーマンの会 (40人)、青森ごのへグリーン・ツーリズム協議会 (17人)、管内女性起業体 (54)、地域の女性リーダー (2人)						
④指導チーム	小野副室長、○関主幹、◎白板主幹						
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>管内の産地直売施設は開設してから20周年を迎える組織が大半で、主に直売所で加工品を販売している女性起業を含め、これまで地産地消や食文化の伝承等の役割を担ってきた。</p> <p>また、VIC・ウーマンをはじめとした地域の農山漁村女性リーダーは、各市町村の地域貢献活動に取り組んできた。</p> <p>このように、地域に根ざした活動に取り組んでいるものの、高齢化や担い手不足などの地域の課題に対する具体的な取組みは少数にとどまっている。</p> <p>特に、女性起業の多くが参加する産直施設は、地域の地産地消の拠点としての機能を維持するためには、これまでの新商品開発などによる経営力強化の取組みに加え、販路拡大や異業種との連携による活動等、新しい取組を実施する必要がある。</p> <p>そこで、地域の課題を明らかにし、農福連携をはじめとした異業種との連携により、地域ごとの課題解決に向けた取組を支援する。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を取り巻く課題解決に向けたコミュニティ活動への支援 (R2~3) ・ソーシャルビジネスの創出への支援 (R2~3) 						
⑥目標及び実績	項目	現状		2年度	3年度		
	コミュニティ活動プランの策定数	3プラン	目標 実績	3プラン 3プラン	5プラン		
	ソーシャルビジネスの創出につながる新たな取組	1試行	目標 実績	1試行 1試行	1実施		
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等					
	コミュニティ活動プランの策定支援	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、管内産直施設、VIC・ウーマンに対する意識啓発 (4~6月) ・コミュニティ活動プラン策定者の掘り起こし (4~6月) ・<u>地域課題の整理及び解決策の検討に向けたワークショップや研修会等の開催 (7~1月)</u> 					
	ソーシャルビジネスの創出につながる新たな取組に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取組を実施する組織の掘り起こし (4~6月) ・モデル実証組織による企画提案書の作成に向けた検討会等の開催 (4~6月) ・異業種と連携したモデル実証活動への取組支援 (7~2月) <p><農林水産政策課：地域共生社会を支える農山漁村女性活躍モデル事業、地域農業を支える普及活動推進事業、女性起業育成・経営発展支援事業></p>					
⑧今後の課題と対応方向							

①施策体系	2 労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産 (3) 安全・安心を強みとした信頼される産地づくり						
②課題名	ウ 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及(R3～5年度)						
③対象名	中泊町の中・小規模稲作経営体(101名)、新規就農者						
④指導チーム	蝦名総括主幹、對馬総括主幹、原主幹、阿部主幹、◎佐藤主幹、信平技師、○若山技師						
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>中泊町十三湖地区では、基盤整備事業により1haの大区画整備と暗きょ排水工事が施工され、大規模稲作経営体への農地集積が進む一方、中小規模稲作経営体では水田の海拔が低いことや下層土の特性により排水不良等で、水田への野菜の導入が少ない状況にあった。</p> <p>そこで、当県民局では「未来に向かう西北型水田農業推進事業(R元～2年度)」により、新たな排水対策技術(カットドレーンによる補助暗きょ)を実施し、排水効果を実証するとともに、水稻作業と比較的競合しないブロッコリーを導入品目、輪作体系の1つの品目として、とうもろこしを選定した。これらにより、水田への新規野菜導入経営体が増加したものの、津軽北部地域では複合経営農家が依然として少なく、今後の米価下落に対応しきれなくなることが懸念される。</p> <p>野菜は水稻に比べ管理作業が多く、導入時の作業時間や収益性に不安があることが、複合経営が少ない要因となっているため、「水稻+高収益作物」での作付体系に応じた作業時間や収益性の指標を示すことが必要となっている。</p> <p>今後、複合経営の普及と波及効果を図るため、十三湖地区や今後町内3地区で行われる農地中間管理機構関連農地整備事業の中小規模稲作経営体のうち、高収益野菜の導入意欲の高い経営体で農業者グループを結成、これを核とし、濃密的に指導を行っていく。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水田への高収益野菜導入経営体数の増加(R3～5) 						
⑥目標及び実績	項目	現状	区分	3年度	4年度	5年度	
	高収益野菜導入に向けた戦略策定	なし(R2)	目標実績	戦略検討	戦略策定	戦略実践	
	高収益野菜導入経営体数の増加	5戸(R2)	目標実績	8戸	12戸	15戸	
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等					
	<p>高収益野菜導入に向けた組織づくりと活動支援</p> <p>高収益野菜普及に向けた展示ほの設置・運営</p> <p>水田への新規高収益野菜導入に向けた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農業者グループ結成に向けた話し合いと計画検討(4月) 導入可能な作付体系の現地検討会(5～8月) 農業者による先進地視察研修(7月、つがる市) 今年度実績と次年度計画の検討(2月) 普及展示ほ設置と担当農家への指導(4～12月) <ul style="list-style-type: none"> ①水稻+ブロッコリー+大豆 中耕培土機の実演(5月) 労働時間(水稻作業との競合)、作付可能面積、収益性調査 戦略作成に向けた検討(4～3月) 新規就農者、高収益野菜導入志向農家についての情報収集(4～3月) 現地巡回による情報提供、啓発活動の実施(5～10月) 先進地事例調査による情報収集(8月、県外) 冬期研修会の開催(1月) 栽培講習会の開催(12月、1月) <p><県民局重点枠：未来をつくる西北型水田農業強化事業></p>					
⑧今後の課題と対応方向							

①施策体系	5 農業水産業の成長と共生社会を支える人財育成 (1) 高い経営力を持った人財の育成						
②課題名	カ 新規就農者の定着と経営基盤の強化 (R1~3年度)						
③対象名	就農5年以内の農業者、農業次世代人材投資資金受給者 (57人)、青年等就農資金借入者 (38人)、法人雇用就農者、就農希望者、準備型研修受講者 (3人)、地域おこし協力隊 (3人)						
④指導チーム	佐々木副室長、斗ヶ澤主幹、◎下山主査、出町主査、和田主任専門員、○黒瀧技師						
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>管内の新規就農者は過去7年間 (H25~R元) で365人 (52人/年) おり、このうち、農業次世代投資資金受給者は146人、青年等就農資金借入者は31人となっている。近年、にんにく、ながいもの販売が好調なことからUターンでの親元就農が多く、最近是非農家出身で法人に就職する者が増えてきている。</p> <p>農家出身であっても、就農間もないときは農業の知識・技術が曖昧で、経営感覚が大雑把で、数量的な把握も不十分なことから、数年は収益が安定的に確保できていない。非農家出身者も研修を受けて就農しているが、気象変動の影響も受け、経験不足から栽培管理技術が不安定で、自立経営までにはかなり時間を要している。</p> <p>また、就農時に資金を借り入れて、機械や施設に投資した者の中には、生産物の収量・品質が悪く、収入不足のため、償還開始を遅らせるケースが見られている。</p> <p>このような状況の中で、農業次世代人材投資資金の受給が終わる5年目までに補助金頼みの経営から脱出するには、経営者となるべく意識を改革し、知識・技術を早期に身につけ、経営の安定化を図ることが急務である。</p> <p>また、法人に所属する雇用就農者については、正規職員としての生産物の知識・栽培管理技術力を高め、法人経営の一翼を担っていくことが求められる。</p> <p>さらには、地域農業をよく知る農業経営士、青年農業士にもサポート体制に参画してもらい、担い手育成の役割・機能を発揮させていくことにより、地域ぐるみで新規就農者を確保し、定着させていく必要がある。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産技術及び経営管理能力の向上 (R2~3) ・資金管理能力の向上 (R2~3) ・市町村段階でのサポート体制の充実強化 (R元~3) 						
⑥目標及び実績	項目	現状		元年度	2年度	3年度	
	重点指導対象(課題設定者)が課題を解決をした人数	-	目標	-	10人	10人	
	青年等就農資金の延滞者数	1人(R1)	実績	-	9		
	サポート体制に農業士等が参画した市町村数	9市町村のうち1町(H30)	目標	-	0人	0人	
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等					
	新規就農者の確保に向けた周知	<ul style="list-style-type: none"> ・県民局や市町村の広報等を活用した新規就農相談や各種研修会の周知(4~5月) ・新規就農へ向けた情報提供や個別面談の実施(4~3月) 					
	生産技術及び経営管理能力の習得支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ヤングファーマーゼミナール開催による体系的な生産技術及び経営管理能力の習得支援 ・農業の基礎的な知識・技術に係る研修会の開催(5~6月) ・仲間づくりのための情報交換会開催(8月) ・先進農業者での現地研修の開催(9月) ・経営管理能力向上に係る研修会の開催(12~1月) 					
	重点指導対象(課題設定者)の課題解決支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別相談による重点指導対象の選定と個別課題の整理(4~5月) ・重点指導対象に対する個別支援(随時) ・経営相談の実施(2月) 					
	資金管理技術の習得支援	<ul style="list-style-type: none"> ・資金借入相談と経営改善資金計画書の作成支援(4~3月) ・資金活用者の経営実態把握と個別支援(7~3月) 					
	サポート体制の充実強化	<ul style="list-style-type: none"> ・農業士等活用によるサポート体制構築に向けた関係機関・団体との合意形成(4~6月) ・サポートメンバーによる面談及び現地指導(4~3月) ・新規就農者の農業士等による巡回指導(5~3月) <p><構造政策課：農業次世代人材投資事業> <構造政策課：フレッシュファーマーズ育成定着支援事業> <構造政策課：青森県地域貢献型地域経営拠点づくり事業></p>					

①施策体系	1 消費動向の変化を見据えた販売戦略の展開 (4) 信頼の基礎となる地産地消の推進							
②課題名	3 新しい生活様式に対応した「しもきたマルシェ」の確立と販売力の強化 (R3~5年度)							
③対象名	しもきたマルシェの会 (25店舗)、新規就農者・就農希望者 (18名)							
④指導チーム	◎落合総括主幹、○坂本主査、小林主査、瀬川主査、大室主査、内村技師							
⑤対象の現状と課題	<p>地元農林水産物等の販売拡大、PR活動を行うイベント「しもきたマルシェ」の継続開催について令和元年より出店者間で協議し、令和3年3月、規約、役員を据えた任意団体「しもきたマルシェの会」を設立し自主運営へと移行した。</p> <p>しかしながら、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催回数を減らさざるを得なくなり、マルシェ運営の十分な実践活動を行うことができず、不安を感じている出店者も多い。</p> <p>併せて、消費者の新しい生活様式に対応した販売方法が求められるようになり、試験的に実施したネットマルシェの結果を受けて、出店者自身が、非対面型販売 (SNSを活用した販売・PR) やネットユーザーへの認知度向上に向けた取り組み (コラボギフトの開発、マルシェPRリーフレットの作成) を通した販売力強化を目指している。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルシェ開催を通した実行委員会の運営体制強化とマンパワーの発掘 (R3~R5) ・新しい生活様式に対応した販売方法の習得 (R3~R5) ・SNSを活用した販売力・PR力の強化 (R3~R5) 							
⑥目標及び実績	項目	現状		3年度	4年度	5年度	○年度	○年度
	1店舗あたりの1回あたりの平均販売額	27千円 (R2)	目標実績	29千円	31千円	33千円		
	ネットマルシェ新規出店者数 (累計)	8店舗 (R2)	目標実績	9店舗	10店舗	11店舗		
	コラボギフトの開発	0 (R2)	目標実績	1品	2品	3品		
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等						
	マルシェ開催を通した実行委員会の運営体制強化とマンパワーの発掘	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>しもきたマルシェ実行委員会の開催</u> (4月、6月、9月、11月、2月) ・<u>しもきたマルシェの開催</u> (5月、7月、8月、9月、10月) 						
	新しい生活様式に対応した販売方法の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>SNSを活用した情報発信セミナーの開催</u> (4月・9月) ・<u>新型コロナウイルス感染症対策販売研修会の開催</u> (6月) 						
	販売力向上のための商品企画とネットマルシェの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ネットマルシェの実施とコラボギフト(加工品等)の試験販売</u> (8月・12月) ・<u>異業種と連携したコラボギフト(加工品等)の検討・開発</u> (4~2月 随時) ・認知度向上に向けたPRリーフレットの作成 (11月) <p><下北地域県民局：新規就農者が支える下北「夏秋いちご」産地力強化事業></p> <p><むつ小川原地域産業振興プロジェクト支援助成事業></p>						
⑧今後の課題と対応方向	※評価時のみ記載							

